

北海道たのしい授業講座での分子模型作り

2014. 3. 13 小樽分子模型の会 齋藤一郎

ichirokasetu@yahoo.co.jp <http://www17.plala.or.jp/ichirokasetu/>

1月8日～10日にシャトレゼ・ガトーキングダムサッポロで行われた「2014年北海道たのしい授業講座」に参加したときのようすをお知らせします。

○1日目

今年は宿泊しないで会に参加することにしました。理由は分子模型コーナーにあまり人が来なくなったからで、もし、夜に分子模型を作る人が来てもなるとなるように、岩見沢西高の三原さんに「三原さんが作りただけ作っていいよ」という約束にして、分子模型コーナーの担当をお願いしました。

ところが、今年の分子模型コーナーは盛況でした。講座が行われている時間帯は、人が少ないのですが、このところ全然人が来なかった夕食後の時間帯にも右の写真のようにたくさんの方が分子模型を作ってくれました。

たくさん来てくれた理由の1つ目は、たのしい授業講座が始まる前から分子模型コーナーを準備して、こういうものづくりがあるんだということ参加者に伝えられたことが考えられます。2つ目は、三原さんがずっと分子模型コーナーにいてくれたことです。予定では三原さんも講座に参加するはずだったのですが、お子さんが許してくれず、全体会場の講座にばかり参加することになったのがそうです。

今年、いいなと思ったのは、《もしも原子が見えたなら》に出てくる空気の分子模型を授業でプレゼントするために作った人が2人もいたことです。こういう方法もあるんだなと感心しました。



○2日目

2日目も昼間は講座に出る人が多く、全体会場も人がまばらでしたが、夕食後は常に人が分子模型コーナーにいました。

2日目も《もし原》の部品作成は続きましたが、水分子をたくさん作る人がいたり、授業書で必要な分子模型を作り人がいたり様々でした。中でもすごかったのは、深夜3時まで、もくもくと氷の巨大分子模型を作り続けた人がいたことです。氷の部品を72個作って、24個ずつ3段に組み立て、巨大な氷の分子模型を仕上げたんです。3日目の朝に分子模型コーナーに行くと、72個の氷が見本以外にももう1つあって、一晩で作ってしまったんだーと驚きました。

三原さんも息子さんとせつせと水分子などを大量生産していました。最初は息子さんも作っていたんですが、さすがに疲れたようでした。息子さんの邪魔に負けずに、三原母さんの作業は続いたのです。



○3日目

さすがに3日目は人が少なかったです。午前中の講座に出る人が多く、作っていたのは疲れ果てた三原さんくらいでした。それでもいろんな分子模型や部品を作っていたようなので、充実した3日間だったのではないのでしょうか？

分子模型コーナーはもう必要ないかなと思ったこともあったんですが、これだけ作ってくれるなら、来年もやらなきゃね。

